

ヒラタ工業株式会社

■事業

上下ストローク付きハンガーショットブラスト導入による
外観品質向上と生産効率改善

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

ILH17型バッチハンガー式ショットブラスト機

世代を超えて継承される技術
品質・生産効率の改善

【経営理念】

お客様に満足していただける鋳物づくりをめざして

農機、モーターなどの鋳物部品を製作するヒラタ工業株式会社。東京五輪が開催された昭和39年、旧平田市（現出雲市）の誘致企業として大阪から進出し、55年にわたる生産ノウハウの蓄積によって、高品質な部品を提供している。補助事業では、製作された部品に付着した砂を落とす最新式の装置を導入。外観品質の向上とともに、生産効率の改善を図っている。

補助事業で導入した上下ストローク付きハンガーショットブラストは、一般的な連続ショットブラストに比べ、外観が美しく仕上がり、しかも製品同士の衝突による打痕がないのが特徴。平成29年、創業者の祖父から、2代目の父へと継がれた経営を、39歳で任された3代目の三好洋平代表取締役が、より高品質な製品の提供と医療機器分野など新たな開拓を目指して導入した。

連続ショットブラストの場合、部品をゆりかごのような状態で揺らして砂を落とすため、ぶつかり合っ角が欠けるなど、砂の落ちが良くないといった弱点があった。しかし、ハンガーショットは、部品を3段の棚に乗せてハンガーのように吊って回転させ、しかも30センチほど上下動させることから、投射する小さな金属球がまんべんなく当たり、むらがなく見た目にも美しい。部品を並べる方向、投射角度などは、しまね産業振興財団と連携して研究した。

省力化・残業時間の減少
小ロット多品種へも対応可能

打痕があっても品質に問題はないが、納品する企業は、打痕を不良品とみなすこともあり、美しい外観品質にこだわるため、満足度がアップしたという。しかも、社内的には生産効率が2割程度向上したことで、省力化が図られ、残業時間の減少につながった。全体の生産量アップに貢献したことから、導入の際に計画した年商は3年後に目標達成を予定していた金額を、1年でクリアした。

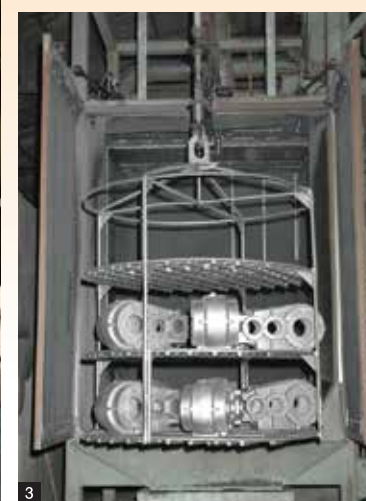
あらゆるニーズに応えることを



キューボラでの溶解作業

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス


1 導入した上下ストローク付きハンガーショットブラスト
2 ヒラタ工業の製品群
3 ブラストに運ばれる部品



モットーとしており、100グラムほどの小さな部品から100キロもあるような大きなものまで、6種の製造ラインで対応。近年は農機の部品が主力だが、ポンプ、ブレーキ、減速機、各種業務用など精度の高さを追求しながら供給している。小ロットが多いため1カ月に1000種類以上の部品を作っている。

新規市場開拓への狙い
雇用拡大も視野に

鋳物生産が全国の上位に位置する島根県だけに、各社技術水準が高く、市場競争で勝ち抜くため、新規市場開拓で医療分野への浸透を狙っている。医療系は現在、歯科用の椅子の部品を製造しているが、今後はCTやMRIの部品製造を新たな目標としており、医療機器の輸出が年々増加していることから、開拓できれば、さらに売上高を伸ばせるという期待が膨らむ。また、健康関連の機器も需要が伸びており、この分野への市場開拓へも意欲を見せている。売上高は景気動向に左右されるが、安定した仕事受注が維持できるように努め、省力化を進めることで、従業員は現在の85人から90人の確保に目標を定めている。

■Company Data

ヒラタ工業株式会社



ヒラタ工業

代表者名：三好 洋平
設立年月日：昭和39年8月10日
資本金：40,000千円
従業員数：85名
主たる業種：鉄鋼業
本社：〒691-0012 島根県出雲市西代町1000-1
電話：0853-63-0880
FAX：0853-63-4025
URL：http://kkhirata.co.jp/